

平和教育部会

佐藤 康尚

ヒロシマ・ナガサキ・ビキニ… なぜ繰り返したのか？

今年の部会の活動は、3・11福島原発事故をどう受け止め、学習課題としていくのか、そのことを主題とせざるをえませんでした。

まず取り組んだのは、原発と核兵器の関連の問題です。共同研究者の高野先生に問題提起をしてみました。核兵器確保も意図した思惑で、中曽根元首相らが、「平和利用」の名の下に導入した経

過とその犯罪性を学習しました。

左の写真は何か、みなさんお分かりでしょうか。一九五四年三月一日、ビキニ環礁での核実験、そしてそこで被曝した第五福竜丸、その乗組員で、貴重な証言活動をしている大石又七さんです。

今年の「現地学習会」では、夢の島公園にある第五福竜丸展示館で、大石さんにお話を聞きました。ちょうど九月二三

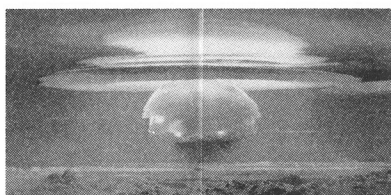
日、久保山愛吉さんの命日で、様々な行事が行われていました。たくさんの方々がこうして集まっている「事実」も教師としては知るべきではないかと思いました。

大石さんは、『ビキニ事件と3・11福島原発事故』と題して、熱いメッセージを配布されています。「被爆者」の思いから、原発

事故をどう見ているか、切々とした思いが伝わる文章です。以下そのメッセージの一部を紹介します。

「誰がなぜ、この核兵器にも匹敵する危険な原発を、地震大国でもある日本に導入したか、私はビキニ被爆者としてビキニ事件を調べているうちにいろいろなことがわかってきました。」「私は言いたいのです。東海村の原発とビキニ事件は大きな関わりを持つているのに今は誰の口からもビキニ事件という言葉が出てきません。当時、核放射能の恐ろしさをあれほど教え警告し平和運動の原点まで作ったのに。事件を隠した結果がどうなりましたか。二万三千発の核弾頭が出来上がり、人類を脅かしています。」「原発導入に関わってきた者たちは、責任を感じるなら、溜め込んだ財産や資産はすべて差し出し、苦しんでいる人たちに頭を下げて自ら仮設住宅に入り、発電所の中に入り陣頭指揮をとるのが筋だと思えます。それでないで帳尻が合いません。太平洋戦争の指導者たちとちつとも変わっていない。」

第五福竜丸展示館は、東京で核放射能について学べる貴重な場所です。大石さんもお元気です。子どもたちに証言していただけます。
(練馬・関中)



【ビキニ事件の表と裏】(かもがわ出版)より